

まごころ見守り保証株式会社

遠藤真人

代表取締役



 mimoto-hosyo.com

 東京都豊島区南池袋1-16-15  
ダイヤゲート池袋4階

### ビジョン

高齢者が安心して生活出来る施設選びから、入居後の病院付き添い、亡くなった後の葬儀納骨までを全力でサポートしていきます。

独居高齢者の増加により、老人ホームや介護施設への入所を検討する家庭は年々増えています。しかし現実には、「身元保証人がいない」という理由だけで施設入所を断られるケースも少なくありません。こうした社会課題に真正面から向き合ってきたのが、まごころ見守り保証株式会社 代表・遠藤真人です。遠藤真人は、創業以前の厳しい下積み時代から高齢者支援の現場に関わり続け、制度だけでは救いきれない独居高齢者の不安と家族の葛藤を数多く目の当たりにしてきました。「身元保証は、特別な人のためのものではない」。そう語る遠藤真人の言葉には、誰もが安心して施設入所を選べる社会を実現したいという強い想いが込められています。遠藤真人が考える身元保証の本質と、まごころ見守り保証株式会社が描く未来について紐解いていきます(2026年1月取材)。

## 身元保証サービス創業の原点 — 下積み時代と独居高齢者への使命

**まずは学生時代のお話から伺えますか。どのような少年時代を過ごされたのでしょうか。**

両親はともに自衛隊員という家庭環境で育ち、小学校時代は、北海道旭川市で少年野球に打ち込んでいました。

野球では強烈な思い出がありまして、新人戦で24対0のコールド負けをして監督に「今年の代は終わった」と言われたんです。ところが、次の大会でまた同じチームと当たって、今度は27対0でコールド勝ちをしまして。それで一応、全国大会には行ったという、なかなか波乱万丈な経験をしています。

**ご両親が自衛官とは驚きです。中学校でもスポーツを続けられたのですか？**

中学で最初は陸上をやろうと思ったんですが、そこで心が折れる出来事がありまして。実は2学年上に、後にオリンピックメダリストになる高平慎士選手がいたんです。

彼の走りをリアルタイムで見た時、あまりの速さに衝撃を受けてしまって。「旭川にこんな速い人がいるなら無理だ」と、陸上は早々に諦めました(笑)。

**その後、大学進学で美術の道を選ばれたと伺いました。スポーツ一家から美術へというのは意外な転身ですね。**

そうですね。高校に進みましたが、これとってやりたいこともなく「卒業できればいいか」くらいに思っていました。ただ、小さい頃から美術が好きで、将来はそれに関わる仕事がしたいという思いはず



っとあったんです。

親との約束で「高校卒業までに夢が変わらなければ美大に行ってい」と言われていたのですが、結局その気持ちは変わらなかったため、北広島にある道都大学の美術学部に進学しました。建築とデザインがある中でデザイン学科を選び、2年生からは木工コースを専攻して、椅子や家具を作ったりしていました。卒業制作では「親へのプレゼント」という意味で棚を作ったのですが、それは今でも実家で使ってくれています。

## 大学卒業後の最初のキャリアはどのようなものでしたか？

親には「北海道を出るな」と反対されましたが、押し切って上京し、東京の青山にあるデザイン事務所に就職しました。池袋の百貨店にも入っているようなハンドバッグメーカーで、デザイナーとして働き始めました。

木工よりもデザインの方が向いているかなと思って選んだ道でしたが、若かったこともあり社長と反りが合わず、わずか3ヶ月で辞めてしまったんです。反対を押し切って出てきた手前、すぐに北海道に帰るわけにもいかず、当時はリーマンショックの時期で就職難でしたが、就職情報誌の求人を上から下まで手当たり次第に応募しました。

## その後、法律事務所に就職されたそうですが、そこではどのような業務を担当されていたのですか？

最初に受かったのが渋谷にある法律事務所でした。そこでの仕事は「病院の医療費未収金を回収する」というものでした。全国の病院へ営業に行き未収金リストをもらい、患者さんに手紙や電話で連絡をするんです。

最初は「病院代を払わない方が悪い、連絡すれば払うだろう」と思っていたのですが、現実には甘くありませんでした。「勝手に治療された」「詐欺だ」「お前みたいな若造に何がわかる」といったクレームの嵐でした。

払いたくても払えない方には分割払いを提案したり、高額療養費制度を知らない方には申請代行をして病院に入金できるようにしたりと、泥臭い交渉を続けていました。

## かなりハードな環境だったようですね。

はい、3年間ほぼ休みなく働きました。上京したてで友人も同期もおらず、遊ぶ相手もいなかったため、働く以外にやる事がなかったんです(笑)。

ただ、毎日クレームを受け続ける中で、ある意味でメンタルが鍛えられましたし、サンドバッグのように何が飛んできて受け止める耐性がつきました。3年経った頃、これ以上は精神的に持たないと思い退職したのですが、その後半年ほどは「日本ハムファイターズの優勝を見届ける」ためだけの日々を過ごしました。札幌ドームに通いつめ、日本一を見届けてからようやく再就職に動きました。



漫画も掲載しています。続きはQRコードからアクセスください ↓↓↓

